測定・評価 704

Ambiguity Tolerance概念とRigidity概念について—その1—
小林哲郎
（京都大学教育学部）

Ambiguity Tolerance（以下ATと略す）は、Adornoらが構成主義的価値の研究をしたFrenkel-Brunswikの提唱した概念である。これは、偏見の強い人々へのインタビューを通じて考察されたもので、ATの高い人は、同じ対象の肯定面を否定、両面の現実的共存を認知できないのではないかという考え方である。この概念は、構成主義的価値、断絶主義、Rigidity、Cognitive Complexity等を概念と関連づけられる。今までの研究は、これらの概念の関連を直接的な相関という形で捉えることが多かった。本研究は、ATの関連性をRigidityともあり、心理測定法の資料に焦点をあてて、その要素を明らかにする試みである。

目的

Brams（1961）は、効果的なコンサルティングができる人のATを高めているという結果を得た。

小林（1968）は、臨床心理学を専攻する大学院生と教育心理学を専攻する大学院生にATの関連性を認めた。ATを測定し、臨床心理学を専攻している者の方が有意にATが高いことを示した。

風見（1977）は、共感能力と呼ばれるパーソナリティ要素と対立しているが、共感能力を含むATが、Rigidity概念のNATとの関連を認めた。Rigidity概念との関連を認めた。Rigidity概念との関連を認めた。Rigidity概念との関連を認めた。

以上のことから、ATが心理測定法の資料に関連し、共感能力がRigidity概念との関連を認めることが予想される。

本研究は、ATの構成としてMAT-SD, Rigidityの構成としてCPとFlexibilityの関連（以下CP-Fx）Water-Jar（O.K.W-Jと記す）を検討し、被験にMMP-Iを施し、MMP-IのD, Mat度のFlexibility-Rigidityの関係についてATに関連する点を示すことが目的である。

方法

検査法は、京都府立教大教育学部の学生で、MAT-SD, CP-Fxを、W-J、MMP-Iのデータからの、たまたまを分析の対象とした。仮称大学の学生は45名（29名, 16名）, 教大大学院の学生は67名（29名, 24名）である。平均年齢は20歳をもって、心理測の講義の時間に施した。

結果

MAT-SD, CP-FxとMMP-Iとの関係を考察した。CP-Fxとの関連を考察した。CP-Fxとの関連を考察した。CP-Fxとの関連を考察した。

1. 以上の結果、ATが高くなると、共感能力がより高くなる。共感能力がより高くなる。共感能力がより高くなる。共感能力がより高くなる。
表1. MAT-5D, CPI-FxとMMPI各尺度の相関

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>Hs</th>
<th>D</th>
<th>Hy</th>
<th>Pd</th>
<th>Pa</th>
<th>Pt</th>
<th>Sc</th>
<th>Ma</th>
<th>Si</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>MAT-5D</td>
<td>-0.108</td>
<td>0.085</td>
<td>-0.056</td>
<td>-0.047</td>
<td>0.036</td>
<td>0.053</td>
<td>-0.057</td>
<td>0.144</td>
<td>0.154</td>
</tr>
<tr>
<td>CPI-Fx</td>
<td>0.104</td>
<td>0.144</td>
<td>0.097</td>
<td>0.096</td>
<td>0.065</td>
<td>0.055</td>
<td>0.138</td>
<td>0.047</td>
<td>0.034</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表2. W-JとMMPI各尺度の相関

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>Hs</th>
<th>D</th>
<th>Hy</th>
<th>Pd</th>
<th>Pa</th>
<th>Pt</th>
<th>Sc</th>
<th>Ma</th>
<th>Si</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>W-J</td>
<td>0.1288</td>
<td>-0.021</td>
<td>0.063</td>
<td>0.020</td>
<td>0.057</td>
<td>0.019</td>
<td>-0.057</td>
<td>0.003</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

+ p<0.1

表3. MAT-5DサブスケールとMMPI各尺度の相関

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>Philosophy</th>
<th>Interpersonal Communication</th>
<th>Public Image</th>
<th>Job-Related</th>
<th>Problem-Solving</th>
<th>Social</th>
<th>Habit</th>
<th>Art Forms</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Hs</td>
<td>-0.012</td>
<td>-0.124</td>
<td>-0.083</td>
<td>0.047</td>
<td>-0.014</td>
<td>-0.264</td>
<td>-0.003</td>
<td>-0.236</td>
</tr>
<tr>
<td>D</td>
<td>0.0222</td>
<td>-0.098</td>
<td>0.235</td>
<td>0.067</td>
<td>0.0209</td>
<td>-0.175</td>
<td>-0.109</td>
<td>-0.0923</td>
</tr>
<tr>
<td>Hy</td>
<td>0.0492</td>
<td>0.0026</td>
<td>-0.0131</td>
<td>-0.0535</td>
<td>0.1501</td>
<td>-0.0071</td>
<td>-0.0337</td>
<td>-0.0364</td>
</tr>
<tr>
<td>Pd</td>
<td>0.1136</td>
<td>0.0261</td>
<td>0.0939</td>
<td>-0.0669</td>
<td>-0.0510</td>
<td>-0.1501</td>
<td>-0.0071</td>
<td>-0.0337</td>
</tr>
<tr>
<td>Pa</td>
<td>-0.028</td>
<td>0.0873</td>
<td>0.1848</td>
<td>0.0490</td>
<td>-0.0568</td>
<td>-0.0490</td>
<td>0.0320</td>
<td>-0.1129</td>
</tr>
<tr>
<td>Pt</td>
<td>0.0598</td>
<td>0.06569</td>
<td>0.233</td>
<td>0.0847</td>
<td>-0.1565</td>
<td>-0.1188</td>
<td>0.0883</td>
<td>-0.1682</td>
</tr>
<tr>
<td>Sc</td>
<td>0.0685</td>
<td>0.0123</td>
<td>0.08506</td>
<td>0.0188</td>
<td>-0.1444</td>
<td>-0.0899</td>
<td>0.0111</td>
<td>-0.1378</td>
</tr>
<tr>
<td>Ma</td>
<td>0.1106</td>
<td>0.0357</td>
<td>0.0119</td>
<td>0.0852</td>
<td>-0.0002</td>
<td>0.1683</td>
<td>-0.1506</td>
<td>0.0000</td>
</tr>
<tr>
<td>Si</td>
<td>0.0178</td>
<td>-0.1331</td>
<td>0.0346</td>
<td>0.0169</td>
<td>0.0777</td>
<td>0.0279</td>
<td>0.1376</td>
<td>-0.1131</td>
</tr>
</tbody>
</table>

+ p<0.10  * p<0.05  ** p<0.01